

オンラインカジノに係るアクセス抑止の在り方に関する検討会（第8回会合 令和7年10月20日）資料番号8-3

オンラインにおける違法スポーツ賭博の現状

2025年10月20日

一般財団法人スポーツエコシステム推進協議会

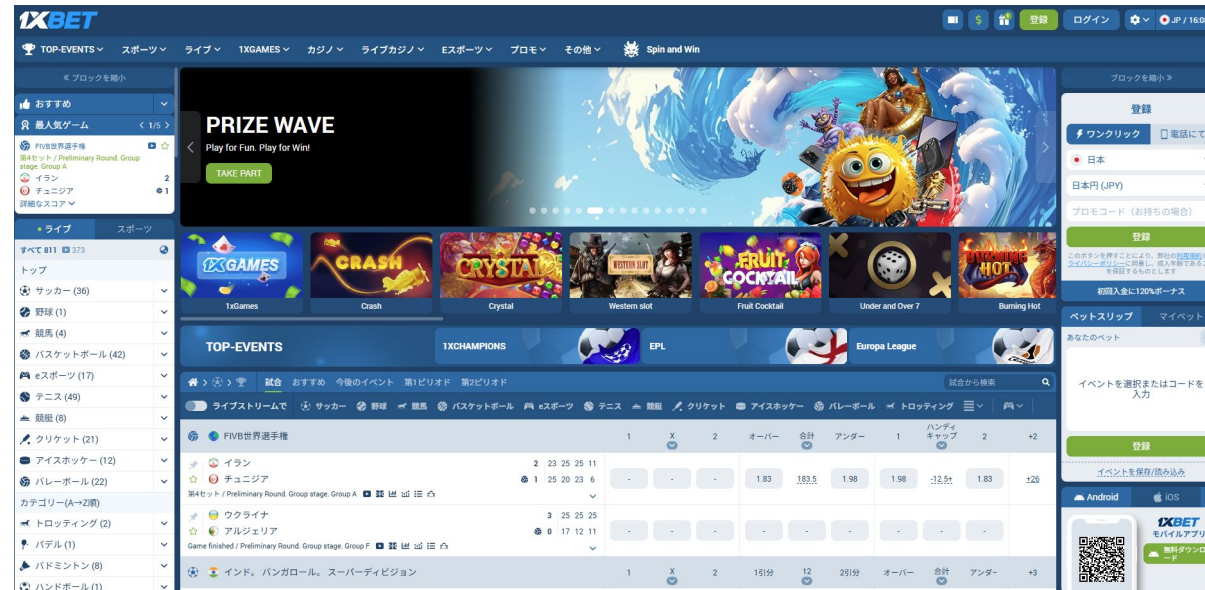
代表理事 稲垣 弘則

1 違法スポーツ賭博における各種リスク



違法スポーツ賭博と違法オンラインカジノの関係

- 違法スポーツ賭博はオンラインカジノへの集客手段として機能
 - 利用者は、親しみやすさから違法スポーツ賭博に興味を持ちやすい
 - ほとんどの違法スポーツ賭博サイトでは、スポーツベッティングとその他のオンラインカジノが、いずれも同じサイト上で一つのアカウントにて利用可能とされている
 - 違法事業者は、違法スポーツ賭博の利用者を、より賭けの回数・金額・種類の多い他のオンラインカジノへと誘導している



(1XBETウェブサイト)

⇒ 違法オンラインカジノと違法スポーツ賭博の問題は不可分一体であり、共通した対策を実施していくことが必要

■ 違法スポーツ賭博における各種リスク

不正操作(八百長)リスク

- 違法スポーツ賭博市場・フリーライド市場では多くのプロ・アマスポーツの試合が賭けの対象になっており、その市場規模は拡大しているため、選手・監督・審判その他の関係者が、違法事業者や反社・マフィアから不正操作(八百長)を持ちかけられるリスクは年々高まっている
- 特に近時は以下の理由により、違法スポーツ賭博において不正操作(八百長)が起きやすい状況にある
 - SNS等を通じて選手・関係者に対して容易にアプローチすることが可能
 - 多様な賭け方が存在(例えば、特定の選手のヒット数・得点数等について賭けることが可能)
- また違法スポーツ賭博には、海外送金を担う違法な決済代行業者が介在し得るところ、払戻金の送金時に住民票等の個人情報が必要となるため、違法事業者や反社・マフィアに弱みを握られやすい
 - 選手・関係者が利用している場合、八百長持ちかけのきっかけになる

■ 違法スポーツ賭博における各種リスク

不正操作(八百長)リスク

例:<日本人サッカー選手による不正操作事例>

- 豪州プロサッカーリーグであるAリーグのメルボルンユナイテッドに所属していた檀崎竜孔(だんざきりく)氏が、2025年4月27日の対シドニー戦で故意に反則を犯してイエローカードを受け、賭博結果を操作したなどの違法行為があったとして起訴
- 2025年8月22日、裁判所は、檀崎氏が友人の元サッカー選手である平山勇太氏と共謀し、自身の試合で故意にイエローカードを受けることにより、同年4月～5月の3試合で計約1万5900豪ドル(約150万円)の利益を不正に得たとして、両被告ともに5000豪ドル(約48万円)の罰金刑を言い渡した
- 平山氏は同年5月22日、2日後の試合に賭けようとして賭博システムが不正を検知。賭博業者がビクトリア州警察に通報し、2人は同月30日に逮捕された
- 同年7月4日、檀崎氏は所属クラブから「契約満了」として退団

■ 違法スポーツ賭博における各種リスク

依存症リスク

- 選手・関係者が違法スポーツ賭博の依存症になるリスクは、一般人と比べて約30%高いと言われている
- 依存症を引き金にして、選手・関係者が自身の関与するスポーツ・試合に賭けるリスクや、自身が賭けた試合への不正操作(八百長)のリスクが増大することに繋がる

権利侵害リスク

- 前述のとおり、日本からアクセス可能な海外スポーツ Betting サイトやその広告の一部において、著作権、肖像権・パブリシティ権等の権利を侵害する可能性のある態様でサービスを提供している例が散見

■ 違法スポーツ賭博における各種リスク

誹謗中傷リスク

- 個々の選手のプレーが賭けの結果に影響を及ぼすことになることから、選手個人が違法スポーツ賭博の利用者等から過度に攻撃的言動(誹謗中傷)を受けるケースが増加
- 不正操作(八百長)リスクと同様に、特に近時は以下の理由により、違法スポーツ賭博において選手の誹謗中傷が起きやすい状況にある
 - SNS等を通じて選手に対して容易にアプローチすることが可能(ダイレクトメッセージでの誹謗中傷も多い)
 - 多様な賭け方が存在し、試合の勝敗だけではなく選手の一挙手一投足が賭けの対象とされている

2 違法市場の実態



日本違法越境市場とフリーライド市場の拡大

日本居住者による
海外サイトを利用した
ベッティング規模(日本違法越境市場)

約 6.5 兆円

日本違法越境市場

日本居住者が日本居住者向けに運営されている
海外スポーツベッティングサイトを利用することにより
形成される市場/年間賭け金総額推計

日本のスポーツに対する
全世界からのベッティング規模
(フリーライド市場)

約 4.9 兆円

フリーライド市場

日本を含む全世界において日本のスポーツを賭けの対象とする
スポーツベッティング市場/年間賭け金総額推計

日本違法越境市場 | 主要国内競技別内訳

- 最大は野球（5,281億円）、次いでサッカー（3,334億円）
- 各競技ともに、前年比でも増加傾向を確認

単位:億円

	市場規模	前年比
野球	5,281.0	+3.7%
JERAセントラル・リーグ、パーソル パシフィック・リーグ	5,281.0	-
サッカー	3,334.0	+6.4%
明治安田J1リーグ	1,657.0	-
明治安田J2リーグ	924.5	-
明治安田J3リーグ	341.3	-
天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会	206.3	-
JリーグYBCルヴァンカップ	205.0	-
バスケットボール	869.2	+9.9%
りそなグループ B.LEAGUE(B1リーグ)	671.1	-
りそなグループ B.LEAGUE(B2リーグ)	136.3	-
B3リーグ	34.9	-
天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会	7.4	-
大樹生命Wリーグ	19.6	-

	市場規模	前年比
テニス	439.7	+6.5%
木下グループ ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス 男子シングルス	140.4	-
東レ パン・パシフィック・オープン 女子シングルス	104.8	-
木下グループ ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス 女子シングルス	93.8	-
四日市チャレンジャー 男子シングルス	52.4	-
横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント 男子シングルス	48.4	-
バレーボール	163.5	+12.2%
V. LEAGUE DIVISION1 MEN	73.7	-
V. LEAGUE DIVISION1 WOMEN	64.3	-
V・サマーリーグ女子	18.1	-
V. LEAGUE DIVISION2 MEN	7.4	-
ラグビー	79.2	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン1	52.8	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン2	21.1	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン3	5.3	-

日本違法越境市場 | 競技リーグTOP10

- 最大は3年連続でプロ野球
- ユーロや五輪なども大きな金額規模に

単位:億円

競技		リーグ	市場規模	グローバル市場規模
1	野球	JERAセントラル・リーグ、パシフィック・リーグ	5,281.0	8,828.7
2	サッカー	English Premier League	3,565.9	117,299.0
3	バスケットボール	National Basketball Association(NBA)	2,763.3	113,791.6
4	サッカー	UEFA Champions League	2,230.4	88,858.9
5	サッカー	UEFA EURO 2024	1,804.8	62,235.3
6	サッカー	明治安田J1リーグ	1,657.0	13,637.9
7	サッカー	LaLiga	1,631.0	53,474.5
8	野球	Major League Baseball(MLB)	1,393.7	52,199.1
9	サッカー	UEFA Europa League	1,285.3	39,305.5
10	サッカー	Serie A	1,201.3	48,831.3
参考	五輪	パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会	922.6	17743.0

フリーライド市場 | 主要国内競技別内訳

- 最大はサッカー（2兆8,534億円）、次いで野球（8,829億円）、バスケットボール、テニスも5,000億円規模
- 各競技ともに、前年比でも増加傾向を確認

単位: 億円

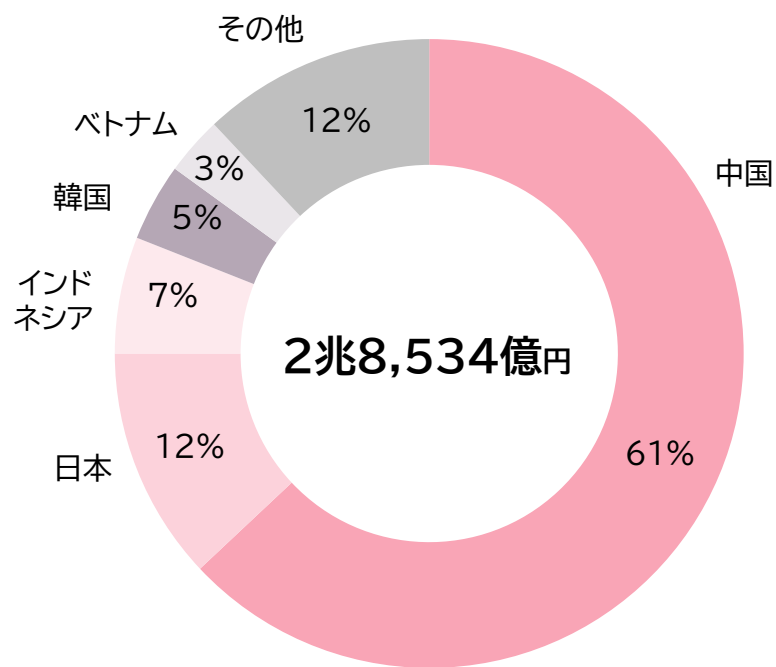
	市場規模	前年比
サッカー	28,533.5	+5.7%
明治安田J1リーグ	13,637.9	-
明治安田J2リーグ	7,337.5	-
明治安田J3リーグ	3,750.0	-
天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会	1,927.9	-
JリーグYBCルヴァンカップ	1,880.3	-
野球	8,828.7	+3.3%
JERAセントラル・リーグ、パ・リーグ パシフィック・リーグ	8,828.7	-
バスケットボール	5,222.5	+9.9%
りそなグループ B.LEAGUE(B1リーグ)	4,477.0	-
りそなグループ B.LEAGUE(B2リーグ)	530.7	-
B3リーグ	113.6	-
天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会	42.5	-
大樹生命Wリーグ	58.6	-

	市場規模	前年比
テニス	5,411.5	+13.4%
木下グループ ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス 男子シングルス	1,708.3	-
東レ パン・パシフィック・オープン 女子シングルス	1,363.9	-
木下グループ ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス 女子シングルス	1,215.1	-
四日市チャレンジャー 男子シングルス	609.8	-
横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント 男子シングルス	514.4	-
バレーボール	730.8	+4.1%
V. LEAGUE DIVISION1 MEN	368.5	-
V. LEAGUE DIVISION1 WOMEN	269.1	-
V・サマーリーグ女子	64.4	-
V. LEAGUE DIVISION2 MEN	28.7	-
ラグビー	329.9	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン1	219.9	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン2	88.0	-
NTTジャパンラグビー リーグワン ディビジョン3	22.0	-

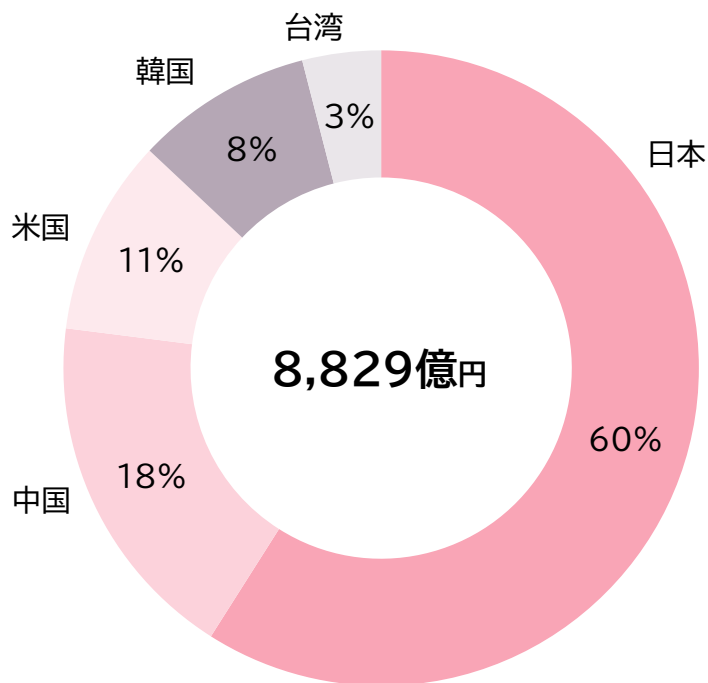
フリーライド市場 | 主要国内競技×国別内訳①

- 野球を除き、中国が大きなシェアを占める結果に
- その他にもアジア各国が上位シェアを記録

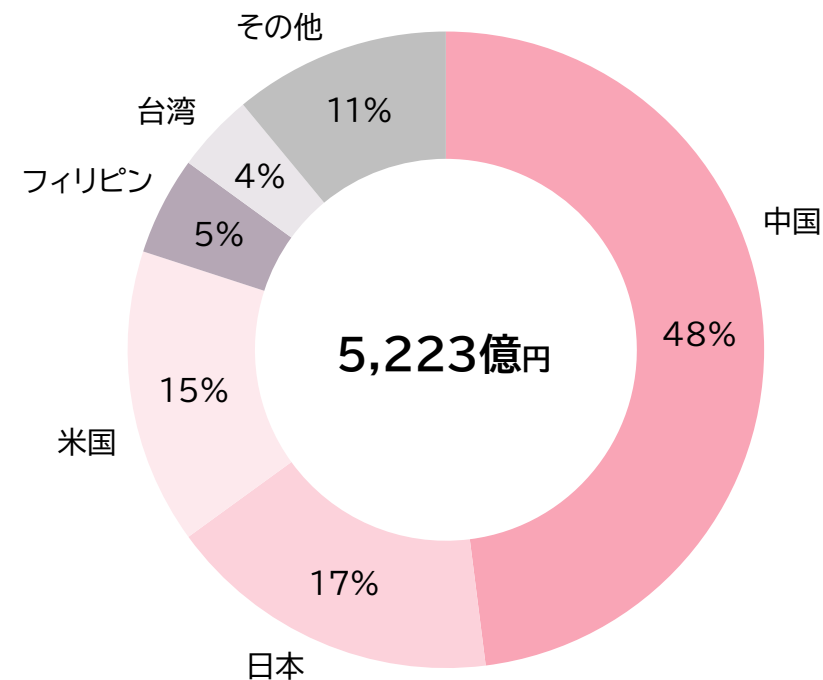
サッカー



野球



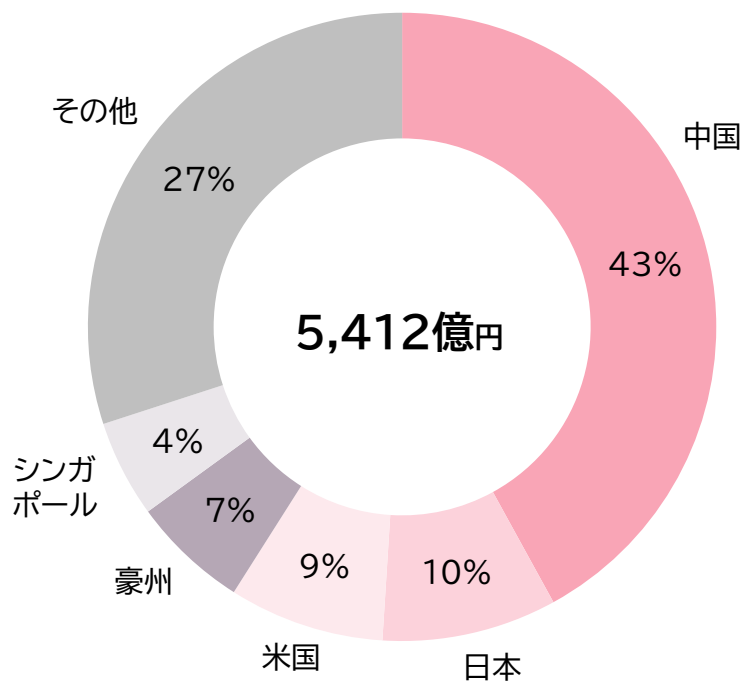
バスケットボール



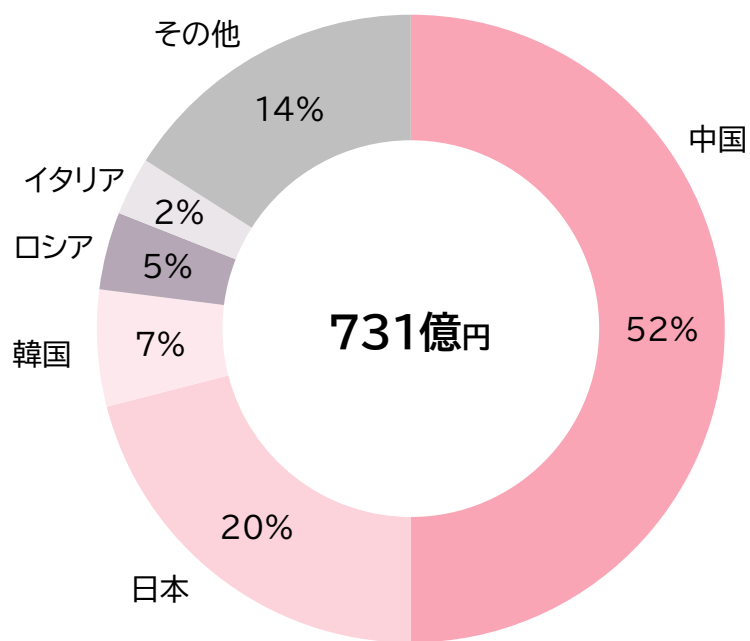
■ フリーライド市場 | 主要国内競技×国別内訳②

- 3競技ともに中国、日本が上位シェア
- 3位以下は競技によってバラつきあり

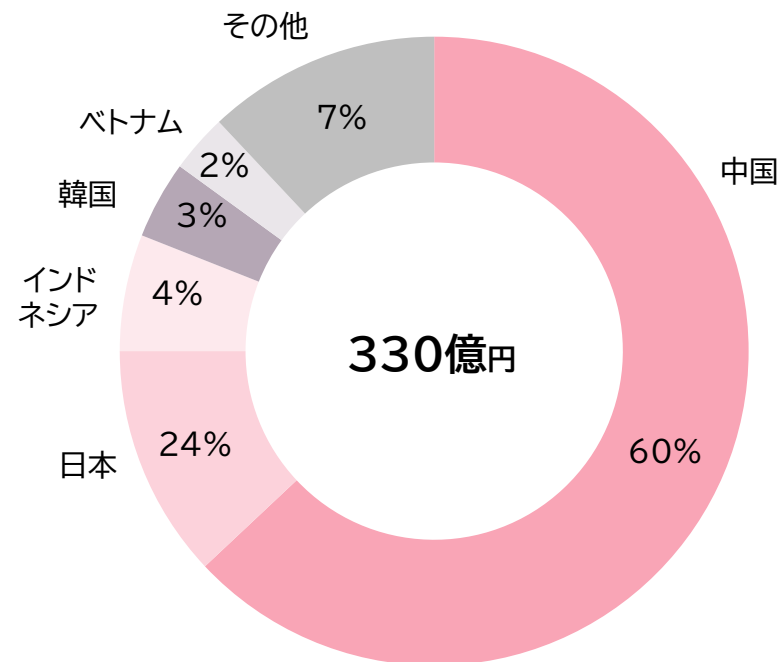
テニス



バレーボール



ラグビー



参考 | グローバル市場規模

- サッカー（121兆円）が群を抜いて最大規模。バスケットボール、テニスが30兆円規模で上位3競技を形成
- 日本は競馬を除いた公営競技に日本違法越境市場を加えると世界4位の市場規模

単位:億円

2024年 競技別市場規模

競技	グローバル市場規模
サッカー	1,213,380
バスケットボール	311,040
テニス	289,980
eスポーツ	131,220
クリケット	123,120
アメリカンフットボール	93,960
野球	77,760
アイスホッケー	51,840
卓球	46,980

2024年 国/地域別市場規模

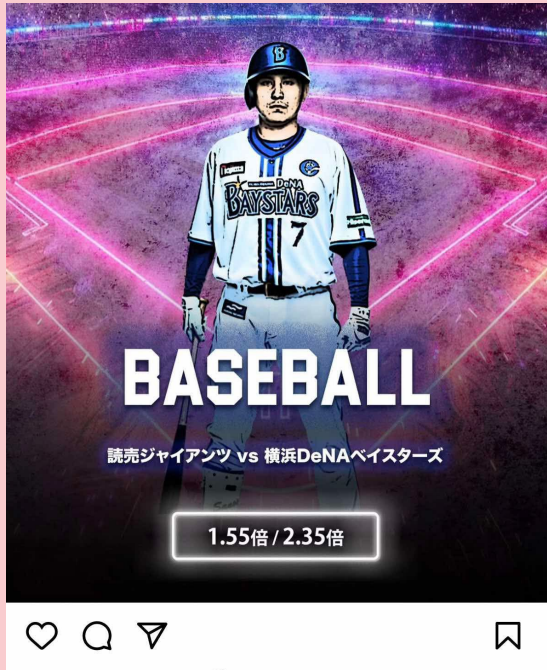
国/地域	グローバル市場規模
中国	791,403
米国	189,298
インド	126,469
日本	104,188
インドネシア	55,853
香港	55,074
ロシア	52,909
韓国	50,328
英国	41,692
イタリア	32,278

※各国競馬の市場規模は含まず

※日本は競馬を除く公営競技+日本違法越境市場の合計値

違法スポーツ賭博サイトやその広告上での権利侵害の可能性

- 日本からアクセス可能な違法スポーツ賭博サイトやその広告の一部において、著作権、肖像権・パブリシティ権等の権利を侵害する可能性のある態様でサービスを提供している例が散見

類型	①試合映像利用	②ロゴ使用	③肖像等利用
例	 (1XBET)	 (カジ旅)	 (beebet)

3 マコリン条約に基づく世界の違法スポーツ 賭博対策



■ マコリン条約と国際連携



発効/2019年

署名/43か国

批准/15か国

目的

スポーツの自律性の原則に従い、スポーツの倫理及び公平/公正性を守るため、スポーツ競技の不正操作を打倒すること

機能

スポーツ競技の不正操作(特に八百長や賭博関連の不正行為)を防止するための国際的な法的枠組みを提供

主な目標

不正行為の防止、発見、制裁に関する共通の法的基盤を提供し、公的機関、スポーツ団体/競技主催者、関係事業者等の国内/国際的な協力を促進すること
スポーツの健全性を維持することを目指す

マコリン条約と国際連携

マコリン条約 (The Convention on the Manipulation of Sports Competition)

ナショナルプラットフォーム

- スポーツ競技の不正操作に対抗する国内の取組を調整・集約・推進し海外とも連携する情報ハブとして設置が義務付けられる
- 国内における協力関係強化(情報共有、捜査支援や関係者間の協力)に加えナショナルプラットフォームを介した国際協調の強化を通じて効果的な対策と実効性発揮を目指す
- 公的機関、NOC、スポーツ団体、に加えその他関連団体や業界団体/事業者など、様々なステークホルダーが所属する形で組成される

コペンハーゲングループ

- 各国におけるナショナルプラットフォームの設立・運営・発展を強化するネットワーク
- 定期的な情報共有を行い、ナショナルプラットフォーム間の連携・相互支援を通じた強固な国際協調を実現

■ マコリン条約に基づく世界の違法スポーツ賭博対策

■ 3.5a 条(違法スポーツ賭博の定義)

- ✓ “illegal sports betting” means any sports betting activity whose type or operator is not allowed under the applicable law of the jurisdiction where the consumer is located

STEP 1

違法性の明示 ・周知

- ❑ 違法事業者の国内向けサービス展開の違法性を明示
⇒ 大手事業者はこの対応で多くが撤退
- ❑ 地域別売上レポート提出要求し、違法市場で運営していないことをライセンス許諾条件とする海外事例も

STEP 2

ユーザー啓発＋ 事業者締め出し

- ❑ ユーザーの啓蒙・啓発
⇒ 違法性・危険性の周知により高い効果が得られる
- ❑ 中小事業者の締め出し
✓ ブロッキング等、事業者側の締め出し
✓ アフィリエイトの取り締まりで集客ルート側を制限

STEP 3

規制市場の創出 /拡大

- ❑ 既存規制市場の拡大、無規制市場の合法化を行うことで、国内ホワイトマーケットを拡大し、同市場にユーザーを誘導
⇒ ユーザーに安全で合法な選択肢を提示することで高い有効性

■ マコリン条約に基づく世界の違法スポーツ賭博対策

■ 11条(違法スポーツ賭博対策)

- ✓ With a view to combating the manipulation of sports competitions, each Party shall explore the most appropriate means to fight operators of illegal sports betting and shall consider adopting measures, in accordance with the applicable law of the relevant jurisdiction, such as:
 - a. closure or direct and indirect restriction of access to illegal remote sports betting operators, and closure of illegal land-based sports betting operators in the Party's jurisdiction;
 - b. blocking of financial flows between illegal sports betting operators and consumers;
 - c. prohibition of advertising for illegal sports betting operators;
 - d. raising of consumers' awareness of the risks associated with illegal sports betting.

- ⇒ 違法なスポーツベッティング事業者に対抗するための最も適した手段を検討し、違法事業者へのアクセス遮断、違法事業者と消費者との資金移動の遮断、広告禁止、消費者のリスク認識を高める措置等を採用することを検討する義務を定める

■ 違法スポーツ賭博におけるブロッキングの実効性(初期的ヒアリング結果)

フランス Autorité Nationale des Jeux (ANJ)

- 行政措置に基づくブロッキングにより迅速な対応が可能となり、一部の違法事業者をフランス市場から追い出すことには成功した
- 他方で、ブロッキングだけでは抑制できず、司法措置、関連事業者との連携、違法な資金環流の遮断等の複合的な施策が必要である

デンマーク Danish Gambling Authority (DGA)

- 司法措置に基づくブロッキングの効果について、DGAではチャネリング率(規制市場の利用割合)を継続的にチェックしている。2024年のチャネリング率は90.3%に達しており、一定の効果が認められる
- 違法事業者はミラーサイトによるブロッキングが可能であるため、一度の裁判所命令によりミラーサイトを含めてブロックが可能となる仕組みを検討している

ギリシャ Hellenic Gaming Commission (HGC)

- ブロッキングは、他の措置と組み合わせることにより、有意義な抑止力として機能する。具体的には、違法事業者の参入障壁を高めるとともに規制市場への誘導効果も認められる
- ユーザーの啓発、関連事業者との連携、国際的なデータ共有等により、ブロッキングの効果を高めることができる

■ コペンハーゲングループへの参加①

■2025年6月19日 8th GoC Meeting Open session

- 日本はマコリン条約の署名・批准に至っていないものの、欧州評議会マコリン条約担当のNicolas氏、コペンハーゲングループチェアマンのCorentin氏より招待を受け、一般財団法人スポーツエコシステム推進協議会(C-SEP)として、代表理事稲垣弘則と国際委員長岩城農において年2回開催されているコペンハーゲン・グループ全体会合に参加し、各国ナショナルプラットフォームとの交流・意見交換を実施
- 欧州評議会からの要請により、山口寿一評議員(読売新聞グループ本社代表取締役社長)から日本プロ野球における反社会的勢力対策について講演



稲垣がC-SEP代表理事としてコペンハーゲン・グループにおける各セッションに参加



山口評議員による「反社会勢力のプロスポーツ界侵食との戦い」に関する講演



コペンハーゲングループへの参加②

- ナショナルプラットフォームにのみ出席者を絞った実務的な共有/議論の場にも出席
- 不正操作のみにとどまらず、依存症対策についても各種最新動向が把握できるなどの成果が得られた

近況報告

欧州評議会	Sophie Kwasny(COE)	・欧州評議会内における関連動向(AI,サイバーセキュリティ、データ保護etc.) ・欧州評議会内における関連人事 ・25年10月時点で署名/批准の正式ステータスを再整理予定
各国個別状況	26か国から個別報告	・各国におけるトピック(法律変更、施策実施、捜査事案etc.) ・署名批准状況(当初目標は年内25批准国。現状15。現実目標20か国) - スウェーデン(4月に批准済)、サンマリノ(6月批准済)、 - UK(秋までに批准)、エストニア(年内批准)
各国 署名/批准状況		
T-MC	Corentin Seagalen(GOC)	・データ保護、資金洗浄、違法ベッティング等に関するガイドラインの策定/更新(年内) ・次回MTG(12月)について
MARS	Sophie Kwasny(COE)	・年次会合(7月1-2日) ・マエストロ(ベルギー)、イタリア、ポルトガルなどのケースについてIOC、FIBA同席の上共有/議論
ACT Project 1&2	Nicolas Sayde(ANJ)	・ACT-PJの第1期の成果、第2期の計画について報告 →各国での啓蒙イベント開催、諜報捜査に関するトレーニング、NP設立支援、その他特筆事項調査

WG 近況報告

Alerts WG	担当国(France)	・上半期のNP間で共有されたアラート数(61回)の報告 ・親善試合に注視すべき傾向を確認したため、サブワーキングを組成
Monitoring WG	担当国(Malta)	・NP間の協力による、大規模国際大会のモニタリングと各協会への同内容の報告実績を報告 ・クラブW杯、女子EURO、アフリカネーションズカップなどが2025年内モニタリング実施予定
Upgrading NP WG	*Corentinから代理報告	・ACTプロジェクトへの併合を決定
GROUND WG	担当国(Estonia)	・不正操作に関するサーベイを実施。(対象はアスリート、審判など関係者) →サーベイ結果のレポートは今後予定
Esports WG	担当国(Malta,UK)	・モニタリングWGにEsports大会も含めるかを協議 ・各国でEsportsがスポーツとして認められているからモニタリングには加えない合意 ・一方で選手年齢が若い事など、ベッティング対象として急成長している事を踏まえ、このまま独自のWGを継続し、参加メンバーも拡大していく事に合意

依存症対策
について言及

その他事項

Addiction	Corentin Seagalen(GOC)	・2025年の注カトピックとして啓蒙イベントを計画予定 ・6月30日にアスリートと中毒をテーマにしたレポートが発表される ・EPASとの連動性強化も検討する
-----------	------------------------	--